

平成27年度第5回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

平成28年3月18日（金） 午前10時00分～午前12時

2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター8階 会議室「千鳥・海鷗」

3 出席者

- （委員） 神野委員、椎原委員、関委員、瀬崎委員、林委員、廣崎委員、大澤委員、竹下委員
- （事務局） 生活文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興課長補佐、文化振興班主査、主任主事3名、主事1名
- （その他） （公財）千葉市文化振興財団 職員1名

4 議題

- （1） 「第2次千葉市文化芸術振興計画（案）」に関するパブリックコメント手続実施結果について
- （2） 第2次千葉市文化芸術振興計画関連事業について

5 議事の概要

- （1） 「第2次千葉市文化芸術振興計画（案）」に関するパブリックコメント手続実施結果について
「第2次千葉市文化芸術振興計画（案）」に関するパブリックコメント手続実施結果等について報告し、意見交換を行った。
- （2） 第2次千葉市文化芸術振興計画関連事業について
第2次千葉市文化芸術振興計画関連事業等について意見交換を行った。

6 会議経過

【神野委員長】

みなさんおはようございます。今年度最後の会議となります。長くご審議いただいていた、第2次計画の最終的確認ということになるかと思えますけれども、今日はまず、パブリックコメント手続実施結果について、事務局から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

< 事務局説明① >

【神野委員長】

ありがとうございました。12件のご意見を寄せていただいたということで、最初の10件のご意見に関しては、この計画案を結構読み込んで色々のご意見を書いていただいて、最後の2件は、自分の身近なところで気になることをお寄せいただいたということかと思えます。

基本的に、市の考え方としてはこの計画の根本に関わるような検討するべきものはなくて、これから事業化する中で解決可能、あるいはその部分には書いてないけれども他の所をトータルで見るとまあ応えられているだろうというような理解の中での回答かと思えます。

これに関し、委員の皆様の方からご意見・質問等がありましたらお願いします。

【椎原委員】

3人という結果を、どのように評価するかということがまず大事なかなと。なぜ3人なのか。告知の仕方が悪かったのか、市民の興味があまり向いていなかったのか。

【神野委員長】

他のパブリックコメント手続の実施状況はどうなのでしょう。この結果が著しく低いのか、市の現状としてあまり意見が寄せられてない現実があるとか、お話を頂ければと思います。

【丸島生活文化スポーツ部長】

実は、他の部署においてもあまり多くの意見を頂けないというのが現状でございます。

これは、多分、千葉市のパブリックコメント手続のやり方に問題があるのかなとは思ってはおりません。やり方は結構色々ありまして、計画が荒い段階で出すものと、千葉市のようにあらかじめ固まってから出すものとあってですね、やはり、あらかじめ固まって出すとあまり意見が出てこないということはあるようです。ただ、千葉市のパブリックコメントのやり方はこの様なやり方を採用しているので、特に関心のある事項以外はあまり意見がないというのが現実です。

今年度、うちの部でもスポーツ振興課と男女共同参画課が同じくパブリックコメント手続を実施して、スポーツ振興課は同じように少なかったです。男女共同参画課は非常に多くて、あちらは数十件の意見があって、意見に基づき、一部計画の文言を修正しています。

市民の関心度の違いとか、その時々状況によって変わるとは思っておりますが、全体的としてはパブリックコメント手続によって寄せられる意見が少ないということはあって、我々もこの少ない

件数でパブリックコメントと言えるのかというのは確かにご指摘の通りだとは思っています。

【神野委員長】

このサイトのアクセス数の検証はされたのでしょうか。

【布施文化振興課長】

おそらく、カウンター自体設けていないと思います。

【竹下委員】

私も、パブリックコメントを書こうかなと思うと、こういう市の考え方っていうのは、ほとんどのところで、「事業をこれから実施するからあなたの意見も少し参考にさせてもらうよ」くらいで流されてしまって、どうもあまり書く気がしないんです。

市の方は多分、もっと大きなテーマで、大きな方針についてどうだという意見を望んでいたのではないかと思うんですが、意見が、例えば空き施設の有効利用とか、非常に具体的なところで提案されていて、もう少し踏み込んで大きな方針についてどうだというような意見ではなかったというところのがっかり感のようなものを私は感じてしまいます。

具体的な、空き施設の有効利用という提案については、市の予算がこれからバツと伸びていくということはありませんから、そういう少ない予算の中で考えられている良いご意見かなと私は思いました。

ものすごく気になったのは、5、6で、「伝統文化にあまりこだわりすぎると後ろ向きの話になってしまって、そこでその文化施策、文化振興がストップする」というご意見ですが、私はそうではないと思います。千葉市という地域にずっと根付いてきた文化を掘り起こすのは、やはり市の文化施策の中では非常に大きな柱であるだろうと思いますから、このご意見のように否定的な面ばかりを強調するのには違和感があります。その点は計画にも書かれていますけれども、ちょっとこのご意見は残念だなという感じがしました。

7の、千葉駅から県立文化会館や市立美術館まで繋げてしまうプロムナード的な構想という、「面」としての整備、あるいは一つの「線」で文化施設へのアプローチを整備するといった構想は私も考えたことがあるんですが、こういうご意見については共感を覚えつつも、なかなか簡単にいかない、おそらく10年単位、20年単位で揉んでいくようなご意見かなと感じました。

【神野委員長】

やっぱり「文化」の捉え方というのは個人個人でずいぶん違って、この方は新しく何かを作っていくということをととても重視をしているけれども、古いものの中から何かが生まれるということは、あまりイメージがないのかもしれない。

「迎合」という言葉も使っていましたけれども、何かそこらへんも、アンケートをもとにしたからといって「迎合」になるわけではない。その後、どのように市が活かして実際の事業を推進していくのかということに尽きるかなと思います。

いずれにしても、もう少し議論が活発になるような仕組みということでは、部長からもいただきま

したけれども、やはり、どのタイミングでパブリックコメント手続を実施するのか、というのが結構重要ですよ。一緒に議論して、自分の意見が反映されながら議論されていくみたいなのが見れば、また関心も引くでしょうから、市全体で、少なくとも文化に関しては、市民に近いところで行うもの、あるいは、市民そのものの活動が重要であるということからすれば、率先して工夫していただくとありがたいなと思います。

さて、他にいかがでしょうか。

【大澤委員】

5の「歴史的地域資源」の部分なんですけれども、これって何百年も前からとかそういう意味合いなんですかね。それとも10年20年、ここ最近という捉え方なんですか。継続されていることも、もう既に文化的な要素の一つとなっているのではないかなと思うんです。

11、市民オペラのところで、政令指定都市になった時に始まったということを知らなかったの、「そうなんだ」と思ったんですが、こういったことも継続されていけば文化の資源になっていくと、そんなに古いことでなくても、ずっと継続されているものがいずれその市の文化や財産になっていくという考えも少し入っていればいいなと感想を持ちました。

【神野委員長】

やっぱり、関心を持ってもらってそれが引き継がれていくということが新しい伝統と言えると思いますので、そこら辺も含めて、私たちが文化をどう捉えるかということがこれからの課題ともなると思います。

歴史が1回途切れちゃっているところも千葉の場合にはあると思いますので、何百年前の鎌倉時代というような話も重要かもしれませんが、それだけで文化を語れないと思います。今後、何か作っていくということであるのは変わらないのかなと。

他にいかがでしょう。

【瀬崎委員】

3人というのはすごく少ないですよ。意見の募集期間が1か月だったと思うんですけれども、その間、どこかで宣伝するとか、すごくアピールして町中に貼り出すとか、何かもうちょっと告知する方法として、皆様の関心が高くなることを考えた方がいいと思います。

そうすることで、「これから千葉が面白い何かを発信する」ことを頑張っているんだというPRにもなると思いますし、「何かお役所が難しいことをやっている」と、ちょっと遠い存在になってしまっているような部分があると思うので、住んでいる人もより身近に、もう少し近しい感じで、意見が言いやすいような方法を考えられたらいいと思います。

媒体として、新聞とか市政だよりを利用している方は40代以降でしたよね。それより若い方達はやっぱりネットとかを利用して色んな情報を得ていて、世代によって情報の得方が違うと思うので、様々なやり方で同時に発信していただければいいと思います。

【大澤委員】

ツイッターとかですか。気軽に言いやすいというのはありますけれども。

【椎原委員】

ホームページ上だけで告知したのでしょうか。文化施策提言ネットワーク（CPネット）などに、例えば、「文化施策のパブリックコメント手続を実施しているよ」とかよく出てきます。そういうところで告知があると、興味のある千葉市民が反応する可能性もある。あるいは、団体助成金をもらっている団体に、ご意見いかがですかと宣伝をすると、助成金をもらっている側からすると、色々之恩恵もあるし言いたいこともあるだろうし、よりコメントの数が増える可能性もあったのかなという気がします。

一般市民に聞くということも大事だけれども、やっぱりピンポイントで発言してくれそうなところには、意見を伺いに行くことをするべきだったような気がします。

【神野委員長】

実際に事業を推進しているので、その人たちは当事者、市民の中の当事者として考えていけば、椎原委員がおっしゃったように、直接、期待されているというメッセージを伝えるということで、もうちょっと活性化したかもしれない。

あるいは、市だけではなくて、CPネットのように全国的にアピールするようなところに載せると、意見を寄せてくれる方もいる可能性もある。

先ほどの瀬崎委員の発言にも繋がると思いますが、どういう風に発信して関心を持っていただくかということは、もう少し色々考えられましたね。今までの行政のやり方の枠組みでは、しっかりご意見いただいて、今まとめつつあるわけですが、もう一つ別の関心も注目も集めたり意見を言ってもらえたりする仕組みというものも、次回に向けてはもうちょっと考えていいのかなと思いますね。

色々な世代という話もありましたけれども、一つには何か事業として、フォーラムでもいいですけども、何か大きなテーマになるようなことを語れるディスカッションの場を設けることによって、市がやっているということが伝わるでしょうし、やはり、マスコミにも伝えていければと思いますね。我々がこうやって会議をやっているということは、ニュースにはなかなかないですけども、シンポジウムなど別の形で事業化することによって、ニュースソースとして活用していただけるということもあるかと思えます。

この3人という結果は残念でもったいないということがありますので、どのタイミングで意見を求めるのか、我々の議論のプロセスをどういう風に知ってもらい関心を持ってもらうのかということや、千葉市で事業を行っている人たちに、当事者として関心を持ってもらうために働きかけるというようなことも今後課題としてあるだろうと思えます。

【廣崎委員】

本当にそう思います。この会議に出ているので、市政だよりも「パブリックコメント手続をやっているんだ」と見ました。ネットも見させてもらいましたけれど、一般市民はやっぱり分からないん

ですね。だから興味をそそるようなシンポジウムの開催や、千葉市が名義後援をしている事業の主催団体、そうすると年齢層が偏ってしまうかなというのもあるので、色々な場所でPRしていただくと、もうちょっと市民も関心が持てるかなと思います。

【大澤委員】

シンポジウムとかフォーラムということはこのメンバーでやっても、十分面白いものを市民は聞けると思います。

私も、市がこういう風に文化のことを一生懸命にやって下さっているということは、お会いしたり会議に出席して初めて分かりました。

市民はそういうことを知らないの、「何もやってないじゃないか」というような役人への非難が先に出てくると思うんです。「どうせ〜」みたいなところもあったり、若ければ若いほどそういう傾向があると思うので、先程おっしゃったようなフォーラムとかすごくいいと思いますし、きちんと企画としてこの会議を1回でも公開すると、「市も頑張っているんだ」ということが市民にアピール出来て、こうした意見も出していただけるのかなと思ったりしました。

【関委員】

「パブリックコメント」という言葉を使って、何らかのそういう方向の人たちにいくなら分かるんですけども、市民に向けて、ただ「パブリックコメント」と言っても、ほとんどの人は分からないですよ。

「パブリック」という言葉を使っているけれど、「何か難しいな」みたいな感じになってしまって、3人という結果になったんじゃないかと思います。

あと、「市の考え方」については、全然、僕は読む価値がないと思います。全部「参考とさせていただきます」ですね。市の考え方というのは、誰がどういう過程で書いているのかということが全く分からないし、この感じだと「参考にいたしかねます」ということはありえないわけですね。なぜ「市の考え方」というものを示す必要があるのかをお伺いしたいと思います。

【丸島生活文化スポーツ部長】

基本的には、市民意見を募集したので、その意見に対して市はどう思うんだというものを示す必要があるということでこのような形で出しています。

もちろん、ものによって、「そういうことはやりません」と書く場合もありますが、今回のご提案は特にそういったものではなく、実際に具体的な事業を考えるときに参考にすべきことなので、そういった書き方になりました。

ご意見を求めて、「全くやりません」とか「そんな意見は参考にしません」というような書き方はもちろんしないので、基本的にはご意見に対して我々がどう考えているのかをお示しして公表するという意味合いで出しています。

【椎原委員】

私が引っかかっているのは4番、「自ら創造して初めて共有になる」というご意見です。

劇場法の理念の中に「創造」という言葉があって、「貸館じゃなくて、創造型事業をやる」ということが言われているわけですよ。そういうところに引っかかると思います。

劇場、音楽堂に関するだけじゃなくて、美術館にも言えると思います。千葉市美術館の展覧会は人気がありますが、展覧会もある種受け身的なので、例えば、市の美術館が何か作品を作るとか、あるいは、アーティストインレジデンスで滞在制作させて作品を設置していくみたいな何か新しい作品を作っていくというような、今までにないことも必要だと思います。

あるものを持ってきて、「これが文化ですよ」ということではなくて、「千葉市が何かを作り出していくんですよ」ということは、ささやかでも色々な場所でありうるわけですよ。すごく立派なことをやるのでなくても、例えば、若い作家が作品をつくっているということもあるでしょうし、演劇のワークショップで一つの作品を作り出していくというような、その積み重ねが「創造」であって、「創造する人材を育成する」ということなのかなと思います。

その人材を育成して、その人がどういうものを創造するかという出口のところが弱いと感じます。この意見というのは、昨今の文化政策の中ではキーワードになってくるところであり、それがオリパラの事業でも活かされていくべきところなので、ここは軽視すべきところじゃないと思います。

【神野委員長】

例えば、「劇場法の理念をふまえ、創造的な市民の育成のために文化事業が貢献出来るように」というようなことも、多分回答として書けますよね。

いずれにしても、計画自体が非常に理念重視なので、実際にこれに形を与えて内容を具体化していくことというのは本当にこれからです。それについて踏み込んで、この方は色々と言いたいことがあるのだと思います。この意見に対してこういう風に言ってしまうと、ちょっと確かに印象としてとても冷たい感じはしますよね。これは市側にルールがあるのかもしれないですけど、「ここは私どもも分かっていますよ」ということを加えていただいて、「今後の事業化の中で、あるいは昨今の情勢の中でそういうことも踏まえたうえで、今後の参考にさせていただきます」というニュアンスを入れるといいかなと思います。

【布施文化振興課長】

他のところは説明書きがあって、「ご意見につきましては～」という書き方ですが、確かにここは、書き出しから「ご意見につきましては～」で始まってしまっていますね。

【神野委員長】

全部ではないと思うんですけども、今、椎原委員がおっしゃたように、ここは市はもうちょっと踏み込めるんじゃないかと思います。劇場法は国の方針でもありますし、自治体もそれに沿って文化ホール等の運営を行っていくわけなので、もう少し踏み込んで書くべきかもしれないですね。

【椎原委員】

計画書3ページ、劇場法のところに「文化芸術の継承・創造・発信する地域の文化拠点として」と、「創造」という言葉がしっかり書かれているので、その「創造」の仕方が具体的にどうなるかは財

団の力量に任せられますけれども、やはり市としてはそれを考えているということはアピールした方がいいのではないのでしょうか。

【神野委員長】

これだとちょっと行政話法に聞こえちゃうので、もったいということでもあると思います。我々も長く色々と議論してきた中で、もう少し言えることはあるのではないかと。

【竹下委員】

意見を書く側からすれば、やはり自分の意見に共感してほしいんですよね。ですので、ここに書かれた「市の考え方」のように「今後、各事業を検討していくうえでの参考とさせていただきます」と同じ文言で統一せず、ここはもう少し「市も共感しているんですよ」と言う書き方があってしるべきだと思いました。

無い袖は振れませんからお金をあちこち振りまくわけにもいかないでしょうけれども、「こういう方向については、我々もそう思います」というような文言がもう少しほしいところです。

【神野委員長】

基本的な回答の中身については、市の方できちんと検討されているのは理解できますので、何かその辺りが滲み出て、きちんと対応していますよという表現は、お手数かもしれませんが、ぜひご検討をお願いしたいと思います。こちらの修正は可能ですか。

【丸島生活文化スポーツ部長】

はい。検討させていただきます。

【神野委員長】

さて、3人という寂しい数ではありましたが、今後のことも含めて色々ご意見をいただきました。やっぱり「共感」が大事だろう、共感してさらにご意見を継続して言っていただける、あるいは監視をし続けていただけるようなコメントと市の考え方の提示の仕方が大切ですね。

内容的には基本的にこれでいいと思うんですけども、そのニュアンス、表現の仕方というのはもう少し工夫していただければありがたいと思います。

このことについては、そのような形で進めていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、引き続き議題2の「第2次千葉市文化芸術振興計画関連事業について」事務局から説明をお願いしたいと思います。

<事務局説明②>

【神野委員長】

ありがとうございます。これからの審議は、二つに切り分けて進めていきたいと思います。

まず、今ご説明頂いたものの多くが、来年度に事業化が予定されている具体的なものかと思えます。

これに関して中身について聞いてみたいとか、あるいは、こういうことを意識されたいというご意見やご質問をまずお伺いして、その後、重点プロジェクトにも位置付けられていますオリンピック・パラリンピックに向けて、この計画の理念を踏まえて国家的事業であるオリンピック・パラリンピックに向けて千葉市がどのように文化プログラムをつくっていくのか、皆さんにご意見を伺います。

まずは、来年度の事業について、何か質問ご意見等ございましたらお願いします。

【椎原委員】

博物館実習が事業なのかというのが疑問です。博物館実習は博物館法に基づくもので、教育委員会から登録されているはずで、教育部局ですよね。博物館法は教育基本法、社会教育法の流れで位置づけられるので、文化政策というよりは教育ですよ。

博物館実習はおそらく、郷土博物館、加曾利貝塚、動物園でも受け入れていると思いますが、それらは文化事業ではなくて、美術館は文化事業というのが、同じ博物館実習なのに違和感があります。

【神野委員長】

確かに、博物館実習を千葉市美術館が受け入れるのにあたって、他には見られないような踏み込んだ実習の受入れ態勢みたいなものがあれば書けるかもしれないけれども、これは例えば、「千葉市では学校で美術・図画工作・音楽の授業をやっていきます」と書いているようなものだと思いますか。

【椎原委員】

水増しみたいな感じがします。文化政策の中でこれを謳って「人材を育成しています」というのはあまりないと思います。

すごく特質なプログラムをやっていて、他とは違うというのがあれば違うと思いますけれども。これは、美術館から申請が出てきたのですか。

【布施文化振興課長】

企画提案書の中の一事業です。

【椎原委員】

この事業に予算が付くのですか。

【伊原文化振興課長補佐】

美術館の指定管理委託料として、全体の企画提案に対して予算が付いています。

【神野委員長】

結局、その事業に何人が何時間従事するというので積算するので、教育振興財団、美術館の立場からすれば、博物館実習に貢献しているということで、提案書に書かれているということですね。

【椎原委員】

予算の出所は、教育振興、美術振興のどちらになるのでしょうか。
美術館の指定管理者は、文化ホールと同じですか。

【布施文化振興課長】

違います。美術館は教育振興財団です。

【伊原文化振興課長補佐】

文化振興課が教育振興財団に指定管理料を支払いますので、文化からお金が出ています。

【布施文化振興課長】

美術館は文化振興課の所管施設です。

【神野委員長】

なかなかここは微妙で、現状は多分やらなくてはいけないことなのですが、指定管理者の立場からすると、例えば、市が人件費を予算化する中で、「これはやらなくてもいいのではないか」とするとやらないわけですよ。教育振興財団からすると自分たちが社会貢献も含めて実施しているということで、提案として出てきているのかなと思いますけれども。

【椎原委員】

学生から料金を徴収して実施しているところも多いけれども、それに見合う人件費以上のことを館としては実施しているわけですね。それも、博物館の宿命、ミッションでもあるので、疑問は拭い去れない。独自で、文化芸術を支える人材の育成に特化している博物館実習を行っているのであれば、それはそれで評価になりうるかなと思いますけれども。

【神野委員長】

指定管理者制度の中での、ある種の矛盾みたいなこともあるので、この博物館実習をここに載せる価値があるのかということは、美術館と協議をしていただいた方がいいかもしれません。

【布施文化振興課長】

はい。

【神野委員長】

新規事業が多いように見えますが、予算的にかなり増額されたのでしょうか。

【丸島生活文化スポーツ部長】

かなりではありませんが、少しは増えています。毎年、少しずつ増えています。

新規が多いのは、指定管理者の切替えの時期ということで、事業内容を大きく見直したからです。

特に、文化振興財団の在り方も見直し、今まで各館で行っていた事業について、拠点施設で何をするのか、それ以外の施設で何をするのかを大きく整理しました。

【大澤委員】

なくなったものもあるのでしょうか。

【丸島生活文化スポーツ部長】

あります。今回は、計画も「鑑賞型から参加型へ」ということですので、鑑賞系が減って参加型のワークショップ的なものが増えています。

【神野委員長】

文化振興財団も、市の計画を頭の中に入れて事業を整理したということですね。

今回、ギャラリー・いなげの事業が結構載っていて、私も関わっているのですが、施設としては非常に地味でありながら、市民に近いところで頑張っていますね。実際に来てくれた市民の中から始まっていく事業を大事にしているので、今の時代に、また、千葉市の文化芸術振興計画のモデルというのは言い過ぎかもしれないですけども、とてもいい活動をしていると思います。

関連事業については頑張ってお実施していただいて、また、委員の方々も注意して見て評価していただくということですね。

いずれにしても、事業の中身がどのように行われたのかということがとても大事になってきます。それが積み重なって繋がっていくと思うので、題目だけでなく、中身をしっかりとやっていただきたいと思います。

そして、みなさんは色々ご意見をお持ちかと思いますが、これからオリンピックが2020年に予定されています。

先日、私が関わったシンポジウムでも、まだ時間はあるけれどもどのような文化プログラムをつくっていくかによって、東京という街がどのように変わることを望むのかということをお広く市民から聞きながら、多様な展開をしていきたいという話をさせていただきました。

千葉の場合は、オリンピックのメイン会場ではないですけども、周辺の自治体と連携していくということが確認されていて、千葉市が会場の一つにもなっています。

具体的には、車椅子とアートというテーマがありますが、そのあたりについてご意見を頂くとともに、また、他にもこういうことが必要なのではないかとということについても自由にご意見を頂きたいと思います。今回が最後の会議ということですので、お一人ずつ言っていただこうと思います。では、大澤委員からよろしく願いいたします。

【大澤委員】

私は、オペラを企画制作して16年経ちますので、自分の中ではプロフェッショナルな域に入りつつあるかなと思っています。ですので、クラシック界、オペラ界からの視点で東京オリンピックをどう捉えようかということは、何年も前から考えています。

私自身、オペラの全国的ネットワークの一員として活動しています。今週末、オペラ界として、東

京オリンピックについてどう歩もうかというフォーラムを開催します。

そういうことも含め、計画の重点プロジェクトとして書かれている、車椅子のアートプロジェクトというものもとても素晴らしいと思いますが、多分、行政がお金を出して実際に手を付けられるのはこのくらいだと思うんです。

市民が参加するということがとても大事だと思いますので、これからの勢いをつけるためにこの機会を活用していこうという市民の動きを作った方がいいと思います。

「市民参加型」という安直な言葉ですが、市民が自ら東京オリンピックに向けた文化プログラムとして何かをしたいということを公としてサポートしてもえたら嬉しいなと思います。

例えば、後援でもいいと思います。千葉市が、市民の活動に対して応援するよというのを表すために、何か一つロゴを与えてあげれば、市民もやる気が増すでしょうし、「千葉市民が動こうよ」、「一つの動きだよ」と理解出来て参加出来るという形を掲げてもらえたらいいかなと思います。

個人的な意見としては、東アジアのオリンピックとして映るこの東京オリンピックの一つの会場である千葉のもうすでにある充実した施設を利用して、具体的に何か東アジアの国々がスポーツに参加する一方で、芸術、音楽などに参加する市民を募るプロジェクトが、千葉の既存施設を使って行われたら嬉しいです。私もマネジメントできますし、人材が問題であれば、募って、実行委員会型にして市がサポートするような動きをつくってくだされば、私もぜひ千葉市を盛り上げたいなと思います。

【竹下委員】

イギリスでオリンピックを開催したときには、イギリス国内の多くの場所で、文化芸術の色々な取り組みが行われたそうですね。

千葉市も、これを一つのチャンスにして取り組んでいく中での一つの提案は、パブコメでもご意見がありましたように、文化施設が点として存在するのではなく、どう一つの散歩道風に繋げていくのかということです。それぞれの道すがら色々な施設がありますが、そういうところを実行委員会形式で結ぶなど、オリンピックまでに整備できればいいと思います。

例えば、「JR千葉駅から美術館までの途中には、色々な施設がありますよ」と、「線」として結ぶということです。パブコメのご意見には、県の文化会館と美術館を繋ぐという話が出ていますけれども、そういう形があってもいいと思います。

あとは、市の美術館の浮世絵をはじめとした収蔵品の中には、東アジアの文化の終点として、一つの集大成として完成されたものとしての流れが辿れると思うので、そういうものも意識して出していけば、外国人だけではなくて、お越しいただく日本の方々にも相当大きな関心を持ってもらえるのではないかと考えます。

【瀬崎委員】

私、昨日まで実は、日伊国交 150 周年ということで、イタリア人と日本人の若手が融合するオーケストラに参加していました。

言葉を使った政治の中では誤解や食い違いがあるけれど、音楽というのは唯一、融合できる、共感できる媒体であると思います。言葉を有しないからこそ、通じ合えるものがあって、イタリアと日

本は古い歴史を持っている国だからこそ、理解しあえる、それを育ていけるということがすごく大事だということでした。

相手を知らないことを知る、友達になる、その友達が興味を広げるという意味で、文化はとても大切な分野ではないかなと思っています。

知的障害者のオリンピックでオーケストラに参加させていただいて感じたのは、やはり障害をお持ちのお友達がいなければ、具体的にどういうことがハードルになるのかということが見えてこないということです。

お互いを知るという意味で、文化というのは大切な役割を担えると思うので、人の交流の場として、世界中の人が気楽に入ってこられる環境や、対応、順応できるしなやかな日本人の感覚を千葉市民は持っていると思うので、文化の色々な形で交流できる場所をつくっていただけたら、色々なことを乗り越えて理解を深められると思います。

アジアで問題が色々起こっていて、とても脅威ではありながらも、お友達が一人でも増えればきっと人って分かり合える、何か違う意味で大きく乗り越えることが出来ると信じて、そういう場面をオリンピックで、世界中の人を迎える空港がある千葉でやってほしいと思います。

【林委員】

色々なことを色々な角度から取り組んでいくことは、もちろん底辺を広げるという意味では必要だろうと思いますけれども、その中の頂点、皆さんが注目するような、一堂に会するような、ある程度大がかりなイベント的なものが出来ると、すごく注目が集まると思います。

芸術というと、美術とか音楽とか演劇とか色々なジャンルがあり、今までも幅広いジャンルを発展させようとしてきたと思うのですが、文化芸術に関心の薄い人でも注目するような、音楽イベント、美術イベントなど、本当に話題になるような取り組みをして注目を浴びるようなことを検討してほしいと思います。

【関委員】

オリンピックで花咲いて散ってしまうのではなくて、オリンピックで何か芽生えてくるものをしていかなくてはいけないと思うんです。

人との交流で、どう他者と向かい合っていくのかということを考えていくのが文化だと思います。例えば、演劇を自営業の人とサラリーマンの人と公務員の人と作ってみようということになっても、その3人が全く会話出来なかつたりしますよね。でも、ちゃんと人と向き合って友達になるということについて考える、人間というものを考える、地球、自然というものをどう考えられるのかということが、文化の使命ではあると思います。

計画の関連事業を見ても、同じような人が集まっている感じがあります。例えば、芸術家の人たちだけで、アートマネジメントの人たちだけで、ボランティアの人たちだけで、ということではなく、色々な人たちがどう向き合っていくかというプログラムが考えられれば、オリンピックに繋がっていくのではないかと思います。

【廣崎委員】

市民と一緒に参加すれば、自分が主役になれば盛り上がると思います。

あとは、オリンピックの時期には、どこに行っても何かやっている、例えば、ベイサイドジャズをその時期に開催するとか、催し物をその時期に組み込むことで、色々なところで、その時期はどこかで何かをやっているようにまとめてほしいと思います。

市民一人一人がボランティア精神をもって道案内をするのもいいと思います。

例えば、文化センターまで案内出来る人が、千葉駅にいないと思います。そういうことをなくすよう、市民への周知と一人一人が参加しているという気持ち、街が全体的に賑やか、元気だという雰囲気をつくりながら、千葉市にある港もうまく活用して海外から人を取り入れるよう、飛行機だけでなく、陸から海から人を引き込むようなものがあればいいと感じます。

【椎原委員】

オリンピック・パラリンピックに関して何か行うにあたって必要なのはディレクターです。

全ての文化プログラムに関して理解できているディレクターというものを、連れてくるか育成することが一番大事です。そうしないと、パブコメで意見が寄せられたように、「理念がない」と言われてしまいます。

千葉市は東京と違うことをやらなくてはいけないだろうし、ソーシャルインクルージョンみたいなことを視野に入れてやっていく必要もある。戦略的に言えば、やはり県と市でタッグを組んで、部署を一つにしないといけないと感じます。県と市で一緒に予算を持つくらいの気持ちでやらないと、上手くいかないと思います。

あとは、美浜区にも企業が沢山あるわけですよ。もっと企業からお金を出してもらって、企業のメセナ活動を引き出していくことが非常に重要だろうと思います。昔からある小さな色々な企業でオリパラ協賛企業体をつくり、オリンピック・パラリンピックの数年前から基金を準備し、その間にディレクターを用意し、県と合同で何かをやれば成功すると思います。

それが持続可能的に何かをしていくためには、ソーシャルインクルージョンのように、社会的弱者に注目することも大事ですが、やはり大事なのは「創造」だと思います。創造がないところに文化はないです。美しい文化を買ってきて「こうですよ」ではいけません。千葉市くらいの政令指定都市であれば「創る」べきです。千葉市の「東京に行けば文化が買える」というところから、「千葉市で創られたものが素晴らしい」というところに価値転換しないと、いつまでも「千葉都民」でいることになってしまうと思います。

【神野委員長】

皆さん、オリンピックの時に、祭を一過性のものとしてやることは意味がないというのは共通認識であると思います。それをどう活かし、どうその先に繋げていくためには、ビジョンが先行しないといけません。

文化芸術というのは今までは個人の趣味だと捉えられていたわけですが、そうではなくて、やはり文化創造都市として語られ、ビジョンを共有出来て、そこで生活する人たちが創造的であるということは、今までの「物を買う」とか「再制作し続ける」というところでは生まれてこないわけです。

【椎原委員】

雇用も誘発しなければならない。

【神野委員長】

それを事業化するということも、持続性の中ではとても必要になってきますね。

経済的なお金の動きみたいなものも含めて、今までのやり方を変えていくことが必要になり、それは日本全体の課題でもありますね。

千葉市は、今まで東京にある種依存するかたちでずっと来られたわけですがけれども、この先人口減、少子高齢化が確実に進んでいく中で、東京だけが肥大化していく可能性があります。その時に、「千葉に住むことは意味がある」と積極的に思って住んでいただいて、そこに住んでいる人たちによって地域の魅力が増すというサイクルをつくっていかなければならない。そこに住むということは、ただ趣味を楽しめる時間があるということではなく、文化がある種の産業として成り立つ、あるいは、既存の産業の中に文化的側面が加味されることでそれが競争力を持って雇用を生んでいくサイクルを生み出していかないと、千葉市、日本自体が沈没してしまうと思います。

その中で、オリンピック・パラリンピックをどう活かすのかということについて、いくつか委員の皆様から「交流をする」という意見を頂きました。ただ仲良しになるというだけでなく、様々な主体が私たちのコミュニティの中にある、そしてそのやりとりの中で自分の持っていなかった価値観に気づく、今まで見出せなかったニーズがそこにあると発見し、相乗効果によって新しい価値を見出しうるということが起きたりもします。そのきっかけとして、文化芸術というのは非常に重要な役割を果たしうるということですね。

芸術そのものが、多様でなければ存在しないものです。それは鑑賞や参加、今回の計画で打ち出されている理念というものを上手く実際のものとして展開出来ることは、実際の交流を通して、持続的な、何か新しいご意見が生まれる他者理解、ソーシャルインクルージョンにも繋がっていきます。それは、誰かに対する施しではなく、そこから新しい価値が生まれていくということが出来るのではないのでしょうか。

その時に、大掛かりなものは今の市の方針だと打ち出せていないと思いますけれども、何かビジョンを共有するための祝祭的な雰囲気の中で、体験を通して、体験が基となって後の時代に繋がっていくことを目指すためにも、ある程度魅力的な規模の大きいものが求められるのではないかとのご意見も多かったかと思います。

もちろん、市民が置き去りにされてしまっただけではいけないので、既に色々な活動をされている方々を中心にしながら、新しい参加の仕組みをどうつくるか、きちんと事前に準備をして、打ち出されている施策にも向いていくと、オリンピック・パラリンピックを契機に千葉の文化というものが変わる気がします。

いずれにしても、2020年まであと4年ですので、千葉市に対する期待と同時に、私たちが出来ることは協力しながら準備をしていけたらと思います。

【大澤委員】

今の理想を実現するためには、お金がすごく必要だと思います。

実際に、海外からお客様が来るのに、宿泊施設も全然足りていない、市民ボランティアも足りていないんですね。ボランティアについては、東京で募集をかけるとは思います、それは東京の見積なので、千葉では全然大人数が足りなくなりますので、千葉を皆に知ってもらうというところでも人材育成を併せてやっていかなくてははいけないと思います。

幕張エリアだけを見ても、エリアが全部分断されていて駅が一つしかないのも、オリンピックの時は大混乱に陥ると思います。ハードの部分の整備もしなくてははいけない。

すごくお金がかかるのですが、あそこで千葉市が宿泊施設を運営してみてもどうでしょうか。空き地が結構あるので、その時だけ千葉市がホテルか何かを運営して、そこでボランティアの育成もするようなことも含めて、総合的に色々なことを、芸術文化に繋がるその手前の部分も全部含めて、ぜひ千葉市で検討してもらいたいと思います。

【神野委員長】

多分、課題は色々出てくると思いますが、それを既存の枠組みで捉えていくと解決も出来ないし、その後続くものもつくれません。

行政の仕事というのは、枠組みが決まっていて自由度がない仕事だと思われるところも多いかもしれませんが、枠組みはそのままにしながらもアプローチをどう変えていくのかという意味ではクリエイティブでありうる仕事だと思います。

その時に、市民が新しい枠組みの中で協力出来ることが文化芸術の中からつくられていくことに大きな期待を寄せて、2020年に向かいたいと思います。

それでは、今日が最後の会議ということになります。2年間、大変長い間、本当にお疲れ様でした。これもちまして、本日の議事は全て終了しました。事務局にお返しします。